

開発途上国の評価能力向上への取組み

～国際協力機構(JICA)連携円借款プロジェクト評価セミナー～

開発事業を効果的・効率的に実施するためには、開発途上国が主体的に評価・モニタリングを行うことが必要です。当行では、2001年度よりJICAと連携して「円借款プロジェクト評価セミナー」を開催し、途上国の援助機関で開発事業を担当する職員を

対象とした研修を行っています。2006年度のセミナーにおいては、当行の評価制度をふまえた個別事後評価のケーススタディの実施に加え、JICA、アジア開発銀行の評価体制・手法や日本の政策評価の紹介等を行いました。参加者たちはこれらの研修を通して評価の意義や重要性を学び、所属する組織の評価・モニタリング体制の改善について検討しました。参加者たちは本セミナー内容のフィードバックを自国で行っていく予定です。

このセミナーは2006年度で6回目を迎え、卒業生は100名を越えました。当行はこのセミナーにて構築された人的ネットワークを活用して、これまでにタイ、インドネシア、フィリピン、スリランカ、インド等との合同評価を実施し、途上国政府の評価制度の改善・調和化への第一歩を踏み出しています。途上国自身による評価の実現に向けて本セミナーを継続的に実施していくとともに、卒業生を通じた評価ネットワークの構築を推進していきたいと考えています。



2006年度セミナーの参加者たち

インターンシップを通して 国際協力の現場を体験

国際協力・開発援助に高い関心をもつ大学院生に対して、開発援助についての理解を深める機会提供を目的として、2004年度より協力協定締結先の大学からインターンシップ学生の受入れを行っています。

当行開発事業評価室では、2006年8月1日～29日まで名古屋大学大学院国際開発研究科よりインターン生を迎えました。インターン生には評価室におけるさまざまな業務のサポート、パキスタンへの出張等、援助の現場の体験を通して、開発事業の評価について学んでもらいました。右コラムでは、インターン生の感想をご紹介します。

パキスタン出張では、「電気通信網拡充事業」(P.80参照)や「コハットトンネル建設事業」(P.81参照)の事後評価結果を現地の人々と協議するとともに、両事業の現場を視察しました。

～インターン生の体験感想～

JBICでのインターンシップは、とても楽しく勉強になりました。具体的には、JBICの方々との出会い、評価室での業務、パキスタン出張の3つが挙げられます。さまざまな経験をおもちのJBICの方々との国際協力のこと等をお話するなかで、自分の視点が広がりました。また、評価室での業務は、JBICの円借款事業の評価を通して、評価についてより理解を深めることができ、いくつかの事業の全体像を概観することもでき、事業評価に興味のある私にとって、とても有益で勉強になりました。さらにパキスタン出張で



水野さん(当行のオフィスにて)

は、東京で資料を読むだけでなく現地に行かなければわからないことがたくさんあることを知り、現地へ行くことの大切さを感じました。このように、インターンシップは私にとって発見と学びに満ちたかけがえのない経験となりました。